



令和2年度国公私立大学附属病院医療安全セミナー開催報告

令和2年度国公私立大学附属病院医療安全セミナーを10月23日に開催しました。本年は新型コロナウイルス感染症流行の影響でオンライン開催となりましたが、計520名と例年より大幅に多くの参加登録をいただきました。今回は特に、(1)オンライン教育を効果的に行うためのツールや工夫を学び、医療安全教育への活用方法を探索する、(2) COVID-19の状況下で求められる役割を果たしてきた医療機関の実例を通して、非常事態下のシステムデザインについてレジリエント・ヘルスケアの視点で考察する、という学習目標を掲げ、計7つのご講演をいただきました。ここでは、そのハイライトを紹介します。

ウィズコロナ時代の新たな教育法の開発 ～オンライン会議システムを活用した教育法と実践例～

座長

大阪大学医学部附属病院 中央クオリティマネジメント部 部長 中村 京太

講演：門川 俊明先生

慶應義塾大学 医学部医学教育統轄センター 教授

オンライン教育の技法

1. 授業方法にはオンデマンド型配信とライブ配信があり、それぞれに長所と短所がある（右表）。
2. 授業を行う際には、必ず、どのように評価を行うかを考える必要がある。オンデマンド型で配信して定期試験を行う科目が多いが、感染状況によっては定期試験が実施できない可能性もあるので、こまめに評価することをすすめる。
3. 学生同士、あるいは学生と教員のインタラクティブ交流を維持する工夫（授業終了後もしくは接続を切らずに置いておく、など）が重要である。

慶應義塾大学での工夫の一例

大学内にスタジオを設営し、教員の授業収録をサポート▶

オンデマンド型とライブ型の違い

	長所	短所
オンデマンド型 非同期型	・好きなときに見られる。 ・早送りで視聴可能。 ・教員の負担は少ない。	・インタラクティブにおこなえない。 ・評価は別に必要。 ・まったく見ていない学生の支援が必要。
ライブ型 同期型	・インタラクティブにおこなえる。 ・その場で評価をおこなうことも可能。	・通信環境の影響を受けやすい。 ・大人数相手だと、インタラクティブに行うのは難しい。



COVID-19対応にみられるレジリエンス ～擾乱の中での院内マネジメントと地域連携～

座長

大阪大学医学部附属病院 副病院長・看護部長 越村 利恵
労働者健康安全機構 理事／大阪大学医学部 招聘教授 中島 和江

講演：小野 和代先生



東京医科歯科大学
統合診療機構 機構長補佐（看護師）

新型コロナウイルス感染症 診療下でのレジリエンス

- 有限な医療資源のマネジメント方針を明確化し、病院全体で実行
- 活動、情報管理、連携を調整する対策室を設置し、各部署が専門性の高い業務に集中
- 組織横断的で柔軟な診療体制の確立
- 臨機応変な物品管理
- 毎日の情報発信

未曾有の感染症の発生！

- ・迅速な決断、指示、実行
 - ・有限なリソースのマネジメント
- が求められる。



「情報の共有」と「現場の柔軟な対応力」
レジリエンス（柔軟な対応力）に支えられた現場

講演：岡田 浩先生



京都大学医学研究科
社会健康医学系健康情報学 特定講師
（薬剤師、社会健康医学博士）

薬局をクラスターにするな！

京大SPH薬局情報G
COVID-19対策プロジェクト

1. 「薬局でのCOVID-19対策」の情報サイトを迅速に立ち上げた。
2. 国内外の研究者、薬剤師との繋がりが重要であった。
 - ・自律的に多くのコンテンツが作成され、SNSで告知。
 - ・Webinerを開催し、海外の情報を収集、発信した。
 - ・国際薬剤師連合（FIP）の感染防止ガイドラインの翻訳、公開。



講演：後藤 隆久先生

横浜市立大学附属病院
病院長

弾よく乱を制すー新型コロナと災害医療の共通点



1987年東京大学医学部卒業。
1988年 米国マサチューセッツ
総合病院麻酔科で勤務。2006年
より横浜市立大学医学研究科生
体制御麻酔科学教授、2014年よ
り同大学附属市民総合医療セン
ター病院長、2020年より同大学
附属病院長。



附属市民総合
医療センター
DPC II群
726床



附属病院
特定機能
674床

COVID-19パンデミック 横浜市立大学の対応

東日本大震災 石巻港湾病院の対応

1. 合理的な役割の分散

- ・ 院長：メディカルディレクター
- ・ 事務長：マネジングディレクター

→ マネジメント側がそれぞれの責任に注力できた

2. 法人の経営指標を日頃から共有

- ・ 何を知ればいいのか話し合う文化がある
- 現場として

物資のない中アイデアを出し合って課題解決

1. 優先順位の明確化、共有

- ・ 職員を院内感染から守る
- ・ 中等症、重症患者に集中する

2. 行政とのつながりの活用

- ・ 行政から得た情報を院内に全面開示
 - ・ 行政との共通認識を確立
 - ・ Y-CERT（横浜市コロナ対策本部）の設置
- 地域における役割分担の円滑化

3. 平時から一定の余裕がある

職員が一丸となって対応できた

リーダーシップ、ボトムアップ、横のつながりがうまく機能している

自律分散＋連携